

アラビア語における余剰の代名詞を含む 'inna-hu, 'anna-hu に後続する節の 統語論的な特徴¹⁾

佐藤道雄

0 はじめに

文語アラビア語では名詞節を作るために 'inna または 'anna という語を節の前に置くが、'inna と 'anna は共に、後続する節が名詞で始まることを要求する。このため 'inna や 'anna の後に語順の都合により名詞で始められない節が来る場合には、指示詞としての機能を持たない余剰の代名詞を 'inna, 'anna の直後に続けることになるということは知られているが、では、この「語順の都合により名詞で始められない節」とはどんなタイプの節なのか。本稿ではこのような節の分類と分析を試みる。

1 'inna, 'anna の機能と一般的な構文

文語アラビア語における 'inna および 'anna は、英語の接続詞 *that* のように、後続する節を名詞化する文法的機能を持つ。'inna は動詞 *qāla* (言う)の目的語に相当する節（すなわち「彼は～と言った」などという文の「～と」の部分）を導き、他方 'anna は、*qāla* 以外の動詞の目的語に相当する節「～ということ」を導くのに用いられる。

1 ويقول ان هذه الانتخابات ستعيد فتح ملف الحزب

wa-yaqūlu 'inna hādihī -l-intiḥābāti satu'īdu faṭḥa malaffi -l-ḥizbi
and-he says 'inna this the-election will do again opening file the-party

そして、この選挙が党のファイルを再び開けるのだと彼は言う

2 ذكرت مصادر خاصة حضرت الاجتماع ان اللقاء كان وديا،

ḍakarāt maṣādiru ḥaṣṣatun ḥaḍarati -l-ijtimā'a 'anna -l-liqā'a kāna waddiyan
mentioned sources special was present -the-meeting 'anna the-meeting was friendly

会議に出席した特別な筋は、面会は友好的だったと述べた

また 'anna 節は、前置詞と組み合わせさせて様々な意味を持つ。

3 لأن لغتنا العربية لغة عالمية اصلا

li-'anna luğata-nā -l-'arabīyata luğatun 'ālamīyatun 'ašlan
for-'anna language-our the-Arabic language global originally

なぜなら、われわれのアラビア語は、もともと世界語なのだから

従属節を導くという以上のような接続詞としての用法以外に、'inna は後続する節(この場合独立した節でも可)の「語調をととのえたり、強意強調を表わし、「げに…」とも訳されるが、訳さなくてもよい。(黒柳・飯森 1976)」

4 ان صلة السياسة بالثقافة كصلة الروح بالجسد

'inna šilata -s-siyāsati bi-t-ṭaqāfati ka-šilati -r-rūḥi bi-l-jasadi
'inna relationship the-politics with-the-culture like-relationship the-soul with-the-body

(げに)政治と文化の関係は、心と体の関係のようだ

以上のいずれ用法の場合でも、'inna , 'anna に後続する節は名詞の対格で始めなければならないという統語論的な制約を受ける。これは、アラビア語では主語(以下S)と動詞(以下V)を明示する文はV Sの語順になるという一般的な傾向に反する。例えば、次の5は新聞記事に見られる一般的なV Sの語順の節だが、'anna で始まっている従属節6ではSと同じ動詞 *rafāḍa* 「拒否する」がSと同様に主語と目的語を伴っているにもかかわらず、S Vの語順になっている。

5 وقد رفض رئيس جامعة حضرموت ... مقابلة الطلاب المتظاهرين

wa-qaḍ rafāḍa ra'isu jāmi'ati ḥaḍramawta ... muqābilata -ṭ-ṭullābi l-mutaḍāhiri na
and-already refused president university Hadramaut meeting the-students the-demonstrating

そしてハドラムウト大学の学長...は、デモ中の学生たちとの面会を拒否した

6 ان مصر ترفض الضغط على عرفات

'anna miṣra tarfuḍu -ḍ-ḍaḡṭa 'alā 'arafāt²⁾
'anna Egypt refuses the-pressure on Arafat

エジプトがアラファトへの圧力(をかけること)を拒否するということ

また、'inna や 'anna に後続する節が人称代名詞で始まるときには、その代名詞は対格、すなわち接尾形になる。

7 اننا نرفض ان يسطح الصراع العربي - الصهيوني

'inna-nā narfuḍu 'an yaštaḥa -š-širā'u -l-'arabiyu --- -š-šahyūniyu
'inna-us refuse for it to spread the-conflict the-Arabic --- the-Zionism

(げに)我々は、アラブ・シオニスト闘争が広がることを拒否する

8 وكأنه جزيرة منفصلة

wa-ka-'anna-hu jazīratun munfašilatun
and-like-'anna-it island separate

そしてそれがまるで別々にわかれた島であるかのように

2 問題

以上の基本的な説明だけでは、余剰の代名詞 -hu (三人称男性単数)を含む次のような構文がどのような場合に用いられるのかを、十分に理解することができない。

9 لكنه قال انه لم تحصل أية خسائر بشرية

lākinna-hu qāla 'inna-hu lam taḥṣul 'ayyatu ḥašā'ira bašariyatin
but-he said 'inna-it did not happen any damages human

しかし彼は(それが)何の人的被害も起らなかったと言った

(節中の動詞の主語は 'ayyatu ḥašā'ira bašariyatin 「何らの人的被害が」)

10 يرى فرويد أنه يوجد وراء هذه الكوابيس المزعجة والخيفة رغبة مخفية

yarā frūyid 'anna-hu yūjadu warā'a hāḍihi -l-kawābisi -l-muz'ijati wa-l-muḥīfati
see Freud 'anna-it is found behind those the-nightmare the-irritating and-the-fearful

raḡbatun maḥfiyatun
desire hidden

フロイトは(それが)これらの嫌な恐ろしい悪夢のうしろには隠された欲望があると考える (節中の動詞の主語は raḡbatun maḥfiyatun 「隠された欲望が」)

Beeston(1993) は、このような余剰の代名詞 -hu について、1) 英語の *it is possible that we may go* の *it* 同様、命題を後回しにするための用いられ方であるか、2) アラビア語の書き手が、文体的または修辭的な理由で、話題 (theme) を文頭に置くと不便になる場合、このような英語では翻訳されない代名詞が用いられると説明している (p.62。ここでの番号は筆者=佐藤による) が、この「文体的または修辭的な理由」とはどんな理由なのかを説明していない。

Wright (1974) は、このような余剰の代名詞を「話の代名詞 *ضَمِيرُ الْقِصَّةِ* (damīru -l-qiṣṣati)」または「できごとの代名詞 *ضَمِيرُ الشَّأْنِ* (damīru -š-ša'ni)」であると述べ、後続する節全体を意味する (Vol.i, p.293), それ自身以降には支配の力が及ばない (Vol.ii, p.81), 男性の代名詞でも女性の代名詞でもありうる (Vol.ii, p.299) というように説明しているが、

具体例を挙げているにもかかわらず、どのような場合にこのような余剰の代名詞が用いられるのかは明言されていない³⁾。

Bloch (1990) は H. Reckendorf (1921) *Arabische Syntax* を引き合いに出し、伝統的な文法で *damir al-ša'n* として扱われている代名詞は、実のところは何を指示しているというのではなく、「'inna とその姉妹」('inna と同様の統語論的な制約を後続する節に課す語) に後続する節の語順を変えないために用いられる文法的機能 (grammatical function) だけを負った語であるとしている。「*damir al-ša'n* によって可能となる語順の例」として、Bloch は網羅的ではないと断わりながらも、1) V S、2) 否定辞 *mā* で始まる節、3) 否定辞 *lā* で始まる節、4) ある種の複文 を挙げている(ここでの番号は筆者=佐藤による)。

余剰の代名詞は文中あるいは文脈中の何かを指示しているのではなく、単に 'inna に後続する節の語順を維持するという機能をもっているだけだという Block の説は、筆者には説得力のある説明だと思われが、では、その「維持されるべき語順」とはどのような種類の構文によるものなのかがあまり詳しくは述べられていない。そこで筆者は 'inna や 'anna に後続する節を分類・整理できないものかと考えた。

3 調査と結果

3.1 対象 資料は筆者の手許にある新聞記事とした。(本稿でここまで用いてきた例文も全て新聞記事から。) 現代文であること、それに「知らせる」ことが目的なので構文が比較的明解であろうと考えられることが新聞記事を採用した理由である。記事の中で 'inna または 'anna の直後に -hu が続き、その後の節の中に更に主語となる名詞句が見られる構文を調査の対象とした。調査した範囲から該当例が全部で75例見つかった。

3.2 分類 75例を、節の形式によって、つぎのように4つのグループに分類した。全ての例が以下のどれかのパターンに該当する。

- 1) 'inna-hu / 'anna-hu の直後が「*lā* + (名詞)」(「～がない」)になるもの。
- 2) 'inna-hu / 'anna-hu の直後が「*mina* -l-(形容詞)」になるもの。英語でいえば、いわゆる「*it ... that ...* 構文」に相当する。
- 3) 'inna-hu / 'anna-hu の直後が副詞句や副詞節になっていて、その後に更に 'inna 節・'anna 節中の主節が続くもの。
- 4) 'inna-hu / 'anna-hu の直後が動詞で始まる節になっているもの。

以下では上の分類の順に実際の例を見ながら分析していくことにする。

3.2.1 'inna-hu / 'anna-hu の直後が「*lā* + (名詞)」(「～がない」)になるもの (5例)

- 11 واضاف هؤلاء انه لا صحة لما تردد عن وقوع ١٥ انفجارا في المدينة

wa-'aḏāfa hā'ulā'i 'anna-hu lā ṣiḥḥata li-mā taraddada 'an wuqū'i 15
 and-added these 'anna-it no correctness of-what was repeated about happening 15
-nfiḡāran fī -l-madīnati
 explosion in the-town

(それが)街で15回爆発があったということについて繰り返されたことには正し
 さがないということはこの人たちは付け加えた

- 12 نعقد انه لا تناقض بين انتماءاتنا الثلاث العربية والاسلامية والافريقية

na'taqidu 'anna-hu lā tanāquḏa bayna -ntimā'āti-nā -t-ṭalāti -l-'arabiyati
 we believe 'anna-it no contradiction among belongings-our the-three the-Arabic
wa-l-'islāmiyati wa-l-'afriqiyati
 and-the-Islamic and-the-African

我々は、(それが)アラブ、イスラム、アフリカという我々の3つの所属の間に矛
 盾がないと思っている

主節の「～と言い加えた」や「～と思っている」などの動詞は、目的語として節を続けた場合に 'anna が必要になり、'anna は一般的に後続する節が名詞で始まることを要求するのだが、一方で、「～がない」を表す表現の一つである [lā + (名詞)] という形式の節は、この語順を変えることはない。そこで 'anna と [lā + (名詞)] 節を結び付けるために、間に「それ/彼」の意味を持たない -hu が介在してくる訳である。(他の語句が介在する例を筆者は知らない。)

3.2.2 'inna-hu / 'anna-hu の直後が「mina -l-(形容詞)」になるもの (12例)

- 13 واشارت الى انه من المتوقع ان يتم التوقيع على الاتفاقية

wa-'ašarat 'ilā 'anna-hu mina -l-mutawaqqa'i 'an yatimma -t-tawqī'u
 and-pointed out ... 'anna-it from the-expected for it to be done the-signing
'alā -l-itifāqiyati
 on the-agreement

....(略。リヤドのイラン外交筋は)、(それが)合意書への署名が行われることが
 考えられるということを指摘した

- 14 فانه من الضروري انشاء

fa-'inna-hu mina -ḡ-ḡarūriyi 'inšā'u-hu
 then-'inna-it from the-compulsory constructing-it

そこで、(それが)その建設が義務的である

15 وهذا ما يجعلني اقول انه من الممكن فعلا ان تصل الى قدر كبير من القوة

wa-hādā mā yaj'alu-nī 'aqūlu 'inna-hu mina -l-mumkini fi'lan 'an tašila 'ilā qadrin
and-this what cause-me I say 'inna-it from -the-possible in fact for you to reach to an extent
kabirin mina -l-qūwati
large from the-power

そして、(それが)きみが大きな力に到達することが実際に可能だと、これが私に
言わせるのだ

上の例で用いられている形容詞を含め、この構文の例に見られた形容詞は以下のと
おり。

mutawaqqa'-	「～が予想される」	2 例
mumkin-	「～が可能である」	2 例
muntaḏar-	「～が期待される」	3 例
muftaraḏ-	「～であるものだ」	1 例
ḏarūriy-	「～が義務である」	2 例
wājib-	「～が義務である」	1 例
ḏarūrat-	「～が義務である」(名詞だが同じ構文で用いられている)	1 例

[min al-(形容詞) + 'an (動詞の接続形) / (動名詞の主格)] という構文によって「～す
ることが...だ」という表現になるので、この構文の前の 'anna / 'inna に接続する場合には、
上記 3.2.1 項と同様、間に語彙的な意味を持たない -hu が介在するのは当然のように思わ
れるが、次の様な構文も、数は少ないが同じ資料の範囲内で見つかっている。これは、後
続する節は名詞で始まらねばならないという 'inna, 'anna の文法的な制約を無視している
ことになる。

16 وقال ان من الواجب الديني والقومي ... أن يسارع الجميع الى وضع حد
لتلك المتاعب والمعاناة الانسانية المريرة

wa-qāla 'inna mina -l-wājibi -d-dīniyi wa-l-qawmiyi ... 'an yusāri'a -l-jamī'u
and-he said 'inna from the-duty the-religious and-the-national to hurry the-all

'ilā waḏ'i ḥaddin li-tilka -l-matā'ibi wa-l-mu'ānāti -l-'insāniyati -l-marīrati
to putting end to-that the-troubles and-the-taking pain the-human the-bitter

そして彼は言った、みんながその人間の苦い混乱や苦勞に終止符を打つために
急ぐことが、宗教的・民族的(・道徳的、そして人間的な)義務なのであると

3.2.3 'inna-hu / 'anna-hu の直後が副詞句や副詞節になっていて、その後更に 'inna 節・

'anna 節中の主節が続くもの (14例) (音転写と和訳の部分では副詞句や副詞節も括弧でくくってある。)

17 انه خلال فترة الستة اشهر الاولى يصعب حدوث الحمل

'anna-hu (hilāla fatrati -s-sittati 'ašhurini -l-'ūlā) yaš'ubu ḥudūtu -l-ḥamli
'anna-it during period the-six months the-first it is difficult occurring the-pregnancy

(それが)(最初の6か月間は)妊娠が起こるのが難しいということ

18 وهذا يعني انه اذا اجبنا سنكون كمن يساعد اعداءنا

wa-hādā ya'nī 'anna-hu ('idā 'ajabnā) sanakūnu ka-man yusā'idu 'a'dā'i-nā
and-this means 'anna-it if we answer we will be like-who helps enemies-our

そしてこれは、(それが)(我々がもし答えたならば、)我々は敵を助ける者のように
なることを意味する

ここでの例も 3.2.1 同様、前置詞で始まる副詞節や接続詞で始まる副詞句と 'inna / 'anna を接続させるために何か形式的な名詞が必要なのは当然なことのように見える。

3.2.4 'inna-hu / 'anna-hu の直後が動詞で始まる節になっているもの (44例)

19 وافادت مصادر مطلعة انه تم تشكيل لجنة باسم « لجنة التفاهم »

wa-'afādat mašādiru muṭṭali'atun 'anna-hu tamma taškīlu lajnatīn
and-told sources familiar 'anna-it completed forming committee

bi-smi ((lajnati -t-tafāhumi))
by-name " committee the-mutual understanding "

そして(それが)「相互理解委員会」という名前で委員会の組織が行われたと、親
しい筋は伝えた

20 يرى فرويد أنه يوجد وراء هذه الكوابيس المزعجة والخيفة رغبة مخفية

yarā frūyid 'anna-hu yūjadu warā'a hādīhi -l-kawābisi -l-muz'ijati wa-l-muḥīfati
see Freud 'anna-it is found behind those the-nightmare the-irritating and-the-fearful

raqbatun mahfiyatun
desire hidden

フロイトは(それが)これらの嫌な恐ろしい悪夢のうしろには隠された欲望がある
と考える

21 واكد مقبل بانه لم يكن هناك اتفاق مسبق مع الحزب الحاكم لتزكيتته في البرلمان

wa-'akkada muqbil bi-'anna-hu lam yakun hunāka -ttifaqun musbiqun ma'a -l-hizbi
and-ensured Muqbil by-'anna-it was not there agreement previous with the-party

-l-ḥākimi li-tazkiyati-hi fi -l-barlamāni
the-governing of-keeping integrity at the-parliament

そしてムクビル(イエメンの野党第一党党首の名)は、(それが)議会で彼に議席を確保する予めの取り決めは与党とにはなかったと明言した

22 لكنه قال انه لم تحصل أية خسائر بشرية

lākinna-hu qāla 'inna-hu lam taḥṣul 'ayyatu ḥaṣā'ira baṣariyatīn
 but-he said 'inna-it did not happen any damages human

しかし彼は(それが)何の人的被害も起らなかったと言った

以上の例も含めて、'inna-hu / 'anna-hu に動詞で始まる節が後続するという構文は44例見つけたが、実際に用いられている動詞の数は限られている。

tamma 「行われる(自動詞)」の諸活用形	16例
yūjadu 「～がある」の肯定・否定	6例
kāna (英語の be 相当。過去の表現に用いられる)の肯定・否定	5例
laysa (現在の表現に用いられる否定のコピュラ)	5例
yumkinu 'an ... 「...することが可能である」	3例
jarā 「状態が保たれる、行われる(本来は「走る」)」の完了・未完了	各1例
ḥadaṭa 「(できごとが)起きる」の完了・未完了	各1例

以下、各1例： lam yabqa 「残らなかった」、 lam yaḥṣul 「起らなかった」、 taḥallala 「～の間隙を縫って起こる」、 sata'hadu 「関わることになる」、 yumna'u 「禁じられている」

大雑把に言ってしまうと、「食べる」「書く」「笑う」などと異なり、存否、可能、時制のシフトなどの文法的な役割を持っていたり、「行われる」「起きる」など、動詞としての語彙的な意味が希薄だったりする動詞がほとんどである。

この項の構文が上の 3.2.1～3.2.3 での構文と異なる点は、上記の3つの構文では節中の語順が変わると非文になるのに対し、節の中に主語と動詞がある構文の場合、そのどちらが先に現われても referencial な内容には影響しないはずだということである。実際に動詞 rafaḍa 「拒否する」が用いられている例 5, 6 では主節では V S、'anna 節では S V の語順になっている。

4. 結論

前節 3.2.1～3.2.3 では、'inna-hu, 'anna-hu に後続する節は語順が変わると非文になることが明らかな構文のものだった。これに対して 3.2.4 での例は、一見、わざわざ剰余の代名詞 -hu を用いてまで維持しなければならない語順ではなさそうに見える。しかし、実際に用いられている動詞を見ると、大雑把ではあるが、1) 文法的な機能を持ったもの、

2) 語彙的な意味が希薄なもの という特徴を持っていることがわかる。このような種類の動詞に限り 'inna , 'anna 節において V S の語順が見られるということについても、3.2.1～3.2.3 で明らかかなような何らかの必然性があるのかも知れない。これまで見てきたことから考えられるのは、

- 1) ある特定の動詞が名詞節に用いられる場合には 'inna-hu, 'anna-hu で始めることになっている。またはそういう傾向が強い。
- 2) 「節全体が新情報となっている」とか「節中の話題 (topic) と動詞の主語 (subject of the verb) が別個の名詞で表されている(これは日本語同様、アラビア語でも可能)」などの、何らかの語用論的な要因によって、V S の語順を変えられない理由があるために 'inna-hu, 'anna-hu で始めざるを得ない。このような「何らかの語用論的な要因」を、特定の動詞が負いやすい傾向がある。

という2点だが、このどちらがより適切な説明となり得るかに関しては、ここで用いられている動詞(またここで用いられていない動詞)の用法を別個に詳しく検討していく必要がある。特に2)のような考え方については、文の話題と文中の動詞の主語を別個に表し得る日本語と対照してみることによって、何らかの類似点が見られるのではないかと、筆者には思われる。

参考文献

- 黒柳恒男・飯森嘉助 『アラビア語入門』泰流社1976
- BEESTON, A.F.L. *Written Arabic--- An Approach To The Basic Structures.*
Cambridge 1993(first published in 1968)
- BLOCH, Ariel A. *Ḍamīr al-ša'n in Journal of Arabic Linguistics 21-90.*
Wiesbaden 1990
- WRIGHT, William *A Grammar of the Arabic Language (Third Edition)*
Beirut 1974

註

1) 本稿は西日本言語学会第32回研究発表会(2002年9月7日、広島工業大学)での筆者の口頭発表「アラビア語における 'inna-hu, 'anna-hu に後続する節の統語論的な特徴」の内容を増減・訂正したものである。口頭発表の際の御意見や御質問に感謝する。またその後、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所でのプロジェクト *Studies on African Languages* の研究発表会でも、西日本言語学会で発表した内容を広げた筆者の発表「アラビア語のいわゆる『できごとの代名詞』構文」に関して様々な御意見・御指摘を頂き、こちらにも感謝するばかりである。*Studies on African Languages* での研究発表は手を広げ過ぎたために問題も多く、本稿では扱いきれないが、発表に対する御意見や御指摘は本稿にも生かしたつもりである。また、本稿執筆にあたり、一部の語彙について、広島工業大学講師のバセム・アブドゥーラ(باسم عبدالله bāsīm 'abdu -llāh)先生にアドバイスを頂いた。この場でお礼申しあげる。

2) 本稿で例に挙げた新聞記事でもそうだが、日常的に書かれるアラビア語では母音や重子音などが表記されない。このため本稿での音転写は、文字で表されていない要素を筆者自身が補って行った。本稿では名詞・形容詞の格語尾(朗読の場合には無視されることも多い)も示したが、人名の格語尾に限っては、新聞記事では明らかに無視されているので、筆者も転写していない。たとえば例5の ḥaḍramawta という語は ḥaḍramawt 「ハドラマウト(地名)」に所有格・対格語尾の -a を付して示してあるが、例6での 'arafāt 「アラファト(人名)」には、あって然るべき(または、あってもおかしくない)格語尾を付けていない。

3) 但し、Wright の扱っている「話の代名詞」または「できごとの代名詞」が適用される構文のパターンの種類は筆者がここで扱っている構文よりも多く、さらに女性の代名詞が用いられているものも見られる。筆者がここでは 'inna-hu, 'anna-hu を出発点として新聞記事のみを扱っているのに対し、出典の範囲の広い Wright の方が用例のパターンの種類が多いのは当然だが、Wright が挙げている全てのパターンを ضَمِيرُ الشَّانِ (damīru š-ša'ni) のタイトルで一つの現象として扱うことができるのかどうかについては更に検討が要るように思われる。